

君に立志・教養・主体的勉学を

—— さうすめは、みちびきの主人翁 ——

二 番 賀 順 吴詒半文

総合科学部長 天野 実

新入生諸君、入学おめでとう。激変する入試制度の時期に幾多の難関を突破して広島大学へ入学した諸君に心からお祝いの言葉を述べたい。

立志：広島大学へ入学した目的は何であるのか、入学時点でもう一度じっくりと考えてもらいたい。現在の自分の大学生活の目標、理想像を描き、歩みは遅くとも目標に向かって着実に進んでもらいたい。「吾十有五而志于学」とは論語の一節であるが、学とは一体何を意味しているのだろうか。おそらく人生の生きかたの学習が「学」であろう。また、それは自分の人間性を向上させるための学びであって決して就職のため、自分だけの壳のためではない。人の一生のうちで若さに満ち溢れた青春の一時期を過ごす4年間の大学生活はあつという間に過ぎてしまう。どうか今日入学の感激の覚めぬうちにはっきりとした目標を立て、志を高く持ち着実に歩んでもらいたい。

教養：日本の国立大学では入学した全学生は初めの二年間に教養課程、広島大学では総合科学部において一般教育を履修しなければならない。テレビ番組「こんなものいらない」でも取り上げられていたように一般教育の是非については議論のあるところであるが、戦後の教育改革でこれが取り入れられた背景を思い起こしてみたい。

一般教育の目的は「すべての学生に対し、その専門のいかんにかかわりなく、人生と学問体系における自分の専門の正しい位置付けを理解させるとともに、将来彼らが社会人として行動するときに必要と考えられる教養を与えることである。」日本の高等教育を現在のように拡大した理由は、少数の人間が国を支配している間はその人たちだけが賢明であれば十分であったであろうが、いわば全国民が究極の支配者となった今の時代では国民全体が賢明でなければうまくゆかないとの認識によるものである。学生が将来いかなる職業に従事するにせよ、その学生はまず良識ある人間であり得ること、人生のいかなる問題に直面しても常にその場合場合に応じて調和適合した正しい認識判断をなし得ることが大切である。そしてさらに民主社会に積極的に貢献し得る人間としての教育を受けることも非常に重要である。もっと具体的に言えば、多様化が非常に進んでいる現代社会に出ても順応、適応出来る人間にぜひともなってもらいたいということである。自然科学系の学生は人文・社会科学系の基礎的素養を、人文社会科学系の学生は自然科学系の基礎的知識の学習をしっかりしてもらいたい。

主体的勉学：大学での特に一般教育履修期間は時間割作成が自由である。自分で自分の時間割を作り勉強することになるわけだ。卒業のための必要単位数の取得は決められているが、いわゆる楽勝科目のみによる単位数揃えはしてほしくない。大学における勉学は自ら問い合わせ、自ら考え、自ら学ぶ姿勢、すなわち常に問題意識をもって主体的に学修することが最も肝要である。子曰「学而不思則罔、思而不学則殆。」いろいろなことを学んでも自分でそのことについて考え思索しなければ、本当の自分のものにはならないし、かといって一人よがりに自分で考えているだけで他から学ぶことをしなければその考えは客觀性をもたず独断におちいって危険である。今までの受験のための勉強のやりかたとは異なって、自分のために、将来のために他から知識を吸収すると同時によく自分で思索研究することを兼ねそなえた勉学をしてもらいたい。

広島大学に入った諸君、未来の日本の社会に役立つ人材に育つよう、初心を忘れず自らの可能性を追求されん事を切望して入学の祝いのことばにかえたい。